

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102361		
法人名	医療法人 長啓会		
事業所名	グループホーム 双葉の家 (2ユニット合同)		
所在地	浜松市南区古川町234		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは開所して9年目を迎えました。開所時よりレクリエーションは毎日の日課として取り組んでまいりました。1号館2号館入居者様18名がレクリエーションを通じて顔見知りとなり、お互いに助け合い協力あって生活する体制が上手く出来上がっております。市の相談員さんや、来設される方に、「入居者さんの表情が豊かで、笑顔があふれていますね」とお褒めの言葉もいただいております。職員の定着率もよく、また、ご家族様にも厚い信頼をいただいております。地域の敬老会には余興をたのまれるなど、日々、地域との関わりも深くなっております。これからも、地域に愛され、ご家族様や、入居者様に「双葉に入居してよかった」といわれるホームを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

慈愛と包容力ある管理者のもと、職員の心優しい面がさらに育ち、それらが利用者にも波及していて、職員の高い定着率を誇る事業所です。例えば特別学級からの入職者にあたっては、受入職員たちで話し合い「ここをもし辞めることがあってもよそで勤められるように」と、授産所を見学するなど努力や工夫を凝らして育てていて、先輩たちの期待に応え、本人も5年間皆勤です。チームワークはケアサービスにふんだんに注がれていて、毎日の散歩はADLに合わせて出掛けるため、職員は何度も外出支援しています。また、元気な利用者が車いすを押すことを自らの役割としていることも日頃の生活環境のよさを物語るエピソードです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「運営会議がもたらす地域との輪」などを掲げ介護に取り組んでいる	開所当時の運営推進会議から今日に至るまで、民生委員、自治会長が「いい事業所」と承認してくれています。その好意の表れは代々受け継がれ、地域の祭りは「御一行様席」を用意してもらえ、甘酒や祝い餅のお土産付のVIP待遇です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に敬老会の余興を依頼され公会堂で寸劇などを披露し交流を深めている	夏まつりで好評をばくした寸劇「双葉公園物語」は、自治会の要請から敬老会で披露しています。一方、「台風で廃材置き場のものが飛んできたら怖い」と自治会長に打診したところ、すみやかに対応してもらえたという例もあり、双方に助け合う関係が築けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では浜松市主催の出前出張講座を利用して「介護保険制度について」など、専門の講師を招き、地域の皆様、家族、職員で勉強する機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催し、地域の自治会長や民生委員、市役所の介護保険課の職員、家族職員も参加し、様々な意見を聞きサービスの向上に活かしている	2ヶ月毎に開催することはできていて、緩和申請も昨年おこない受理されました。会議内で「オムツ交換、体位交換、の講習会をおこなったことで、参加者が介護職の道へ進んだこともあり、現在も講座は続いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいている市の職員の方とは顔見知りとなり、気軽に質問できるより良い関係を築いている	運営推進会議の案内と議事録は直接区役所まで届けていて、市職員も毎回欠かさず参加してくれます。介護相談員の訪問は月1回あり、連れだって一緒に散歩してくれる相談員もいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝夕職員一人の勤務時間帯はフロアの出入り口を施錠している 身体拘束0宣言をしており、職員は身体拘束について、講習も受けており、正しい理解をしている	時間帯により施錠する場合がありますが、「なぜするのか」について理解と意識の継続ができるよう、本部開催の研修会に参加しています。利用者によっては同調しにくい職員もいて、そのような場合は隣のユニットに一時的に異動してもらい、利用者本位で取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止の講習を受けており、虐待が見過ごされることの無い様に、注意をはらっている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、入居者のなかに後見人をたてた方がいたので職員は実際学ぶ機会をもち大変参考になった			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書をかわし、十分説明している質問は随時受付しご理解していただいている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項を掲示し、窓口を明確化している苦情相談表を作成し、その都度、話し合っている	“双葉だより、では外部評価の家族アンケート結果を活かし、毎月の行事を掲載するようにしています。面会だけでなく、運営推進会議、事業所のまつり、運動会でもコミュニケーションの機会がありますが、参加する家族が固定化していることが課題です。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	館長がいつでも話を聞いてくれる月1回の双葉会を開催し、疑問点をあげたり、意見などを言い情報交換をしている	一つひとつの懸案に対して全員で話し合い、合意形成するプロセスを大切にしています。休日の買い物帰りに立ち寄る職員もいて、職場が好きなことが伝わります。また、定例会の名称を“双葉の会、”としていることから職員がひとつになっていることが覗えます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり、いつでも、見ることが出来る場所においてある			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の研修や法人内外の研修、就業に必要な講習には積極的に参加している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議を開いて、話し合いや、勉強会をして、サービスの向上に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の性格を知り、話を聞き、本人が安心して生活できるように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮しながら、家族が話しやすい環境になるように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでどのような生活をしたのか、話を聞きそれにあつたサービス計画をたてるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを知り、家族の一員のように接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちを知り、意見を尊重し、安心して暮らしていけるような介護を実践している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回発行している「双葉だより」でホームの行事やボランティアの訪問、本人の近況などを知らせている 本人の友人、知人がいつでも来られるように、家族に説明している	面会の家族は決まっていますが、できるだけ来所してもらえるよう、請求書を取に来てもらっています。ADLの低下に伴い在宅の頃の趣味の継続は難しい状況にありますが、プランターの水やりを習慣としたり、畑での収穫などを楽しみにする人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	18名全員が顔なじみになるよう毎日レクリエーションを行い、個々の性格を表現できる取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自由に生活していただくために、好きなことをしていただいている	食事介助においても単に口に運ぶのではなく、本人の意向を確認し、要望を尋ね、なぜ食事が大切かを話しつつおこなう様子を視認し、常から本人本位に取り組んでいることが覗えました。また、いたわりの言葉がけが利用者同士にも双方向にあり、日頃の安寧ぶりが伝わります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを実施して、モニタリングを定期的に行うことで、これまでの暮らしぶりを把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「今、何をしたいのか、どうしてほしいのか」を気づくようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本意の介護計画を立て、家族、協力医と相談しながら、実行している	全員で話し合い意見をまとめたうえで、計画作成担当者がプラン化し、家族には面会の折に確認してもらっています。また、経験の少ない職員も「介護記録」と称するプランの実践を確認するシートがあることで着眼できるようになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、申し送りノート、毎日のカンファレンスを開いて話し合い介護計画の見直しを実行している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1回の受診時、外食、遠足等の付き合いもしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの行事(夏祭り、運動会等)には地域の人を招待している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの看取りを希望している家族もあり、その都度主治医、家族、ホーム間の連携をとりながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からのかかりつけ医を継続している2名以外は職員が対応していますが、家族が難しい場合はすべて職員が支援しています。訪問看護師が週2回来所して、塗り薬の対応など丁寧に教えてくれ、職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来たときは入居者の日頃の状態を伝え適切な援助を受けられるように心がけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の様子を見に行ったり、病院関係者や家族と話し合いをもつようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医、家族、職員と連携を持ち十分に話し合い次のステップに進むように対応している	24時間対応の協力医がいますが、医師、職員体制、また家族においても刻一刻と変化があるため、都度話し合い、最善を尽くしたい考えです。本部が開催する研修にも参加して、知識の標準化も進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の訓練を受け実践力を身に付けている 新しい職員も増え、新たに消防署主催の救急対応訓練に参加することを考えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を職員、入居者全員で行っている 地域の皆様にも自治会長を通じ、協力体制ができている	年2回の防災訓練はおこなっていますが、地域の人を招いてのものは1年以上ブランクがあり、継続が課題です。近隣企業の「ソミック石川」が親和的で、駐車場の開放や非常食の寄付など、「何かあれば言ってください」と協力への意向を示してくれています。	すでに地域連携ができていますが、地域の一員の役割責任として防災訓練への参加も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分配慮し、個人情報は事務所で管理している	トイレも自ら職員を呼んだり、オープンな雰囲気ですが、職員は柔らかなトーンで関わっていて、配慮を感じます。フロアで伝達事項があるときは、紙に書いたり音量を落とすなど工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな衣服を選び、着用していただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活のなかで、できることは手を出さず見守り、出来ないところを介助するように心がけている 声かけや、励ましを行うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回専門の理容業者が来設し、本人の希望に従い好きな髪型に整髪してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の野菜の皮むき等、職員と一緒に楽しみながら手伝っている 食器拭きや食器の片付けなどできることはやっていたい	ご飯と汁物は職員がつくっていますが、惣菜は業者から調理済が届けられています。日曜日はすべて手作りのため、野菜の皮むきなどを手伝ってもらっています。食欲のない人に混ぜご飯などの工夫に取り組み、一人前食することができるようになった例もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は介護記録に毎日記入している 持病のある方は協力医の指示に従っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後その人にあつた方法で口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあった排泄パターンを把握し、時間を決めてトイレ誘導、介助し、見守りながら自立の支援をしている。個人にあった排泄記録を作成している	「なるべくトイレで」という方針のもと、立てなくなるまでオムツは避けるようにしています。消耗品は家族負担のため、職員間の話し合いも過去にされており、現在はコスト意識が使用方法にも反映しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて、排泄の状態を観察し、飲食物や運動等で工夫している 主治医と相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時にはバイタルチェックをし、また、ゆっくり楽しめるようにお話ししながら、湯温度、室温にも気を配っている また、体の異変なども観察している 週3回以上入浴し、希望すれば毎日入浴できる	ゆったりと入ることと身体の状態の確認をねらいとして、介助者数を確保するために2ユニット合同でおこなっています。湯は毎日はっていて、各ユニットから2名ずつの職員が中介助、外介助に分かれ、手厚い介助となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により、居室で自由に休息したり、冷暖房の調整をしながら、本人の体調に合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法、用量を理解しており、少しの変化も見逃さないように心がけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵、パズル、畑仕事などそのひとにあった楽しみごとをしていただいている 散歩、外食、遠足、ドライブなども楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	遠足や、外食等の計画を立て、戸外に出かけている 家族にも協力していただいている 夏祭りには、「買い物ごっこ」で、買い物の疑似体験をして大変喜ばれた	毎日のように戸外の散歩とボール遊びをおこなっているためか、利用者は非常に壮健です。ガーデンパークへのお弁当持ち遠足と初詣は全員外出が恒例となり、定着している外出行事で、回転すしの外食とともに色鮮やかな写真掲示を確認しました。家族が受診帰りに一緒に食事を摂ってくれることもあります。	全員外出が充実していますが、誕生日などをきっかけとして、個別外出レクも検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方は、自分で買い物をしていただいでいて、支払いもしていただいでいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をし、自分の意見や用事を伝えてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に合わせた飾り(ひな祭り、クリスマスなど)を玄関ロビーに飾っている 行事ごとの写真の掲示、花や野菜を植え季節感を楽しんでいただいでいる	東京音頭を替え歌にした“双葉音頭、”が掲げられ、職員とともに利用者が此処を第二の我が家としていることが覗えます。また、百歳を迎えた人2名へのお祝いの言葉を利用者が力を合せ貼り絵にしたものからは、疑似家族以上のぬくもりが伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビングで入居者同士で、会話やゲームを楽しんでいる 入居者18名が自由に行き来できる様に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より本人の馴染みのある家具、筆筒、仏壇等を持ち込み居心地の良い居室作りをしている	各居室前には避難支援のめやすとして“自立歩行、”“車いす、”の印があり、安全への配慮がみられます。エアコン、ベッド、クローゼット、洗面所、カーテンが備え付けられていて、大きな持ち込みは少ないものの、位牌や家族写真などの小物はみられ、またドアには個々に好みのものが貼られていて、自由度の高さを感じました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりもついており安全に過ごせる構造になっている		